

# 第三回フレーベル賞 幼児童話審査に就て 審査員諸氏の御意見御感想

## 選後の感想

小川 未明

多くの作品を読んで、私の先づ感じたことは、やはり古いお伽噺風のものゝ多いといふことでした。たゞへ形式は古くても、その作品に新鮮味があり、また美しさがあれば、別でありますけれど、さうでなくして、その内に含まれた比喻も、寓意も、或は教訓も、有ふれたものであり、浅いものであれば、是等の作品には、魅力がないといふ譯であります。

さうした作品も、口演さるゝ場合には、或は面白く子供

達にきかれるかも知れない。しかし、それは語る人の技術によるのであつて、その作品が持つ、文學的價值ではないのであります。

こゝでは、何よりも作品が、文學でなければならぬことです。

△

次に、半ば現實的であつて、半ば空想的な、ちやうど木に竹をついだやうな作品の多いことでした。童話は、も

より單なる記述であつてはならぬのであるから、空想を入れるのは作者の自由だけれび、お話を構成する上に、渾然純化されなければならぬものです。

しかるに、作者の意圖が、子供の實生活を取扱ふにあつたものゝ、觀察と想像力の不足から、中途より、漫然たる空想の易き世界へ逃れたのが、かゝる結果となつたのであります。

言ひ換へれば、作品として、不熟であり、未完成のものでした。

## △

殘る作品は、兎に角、現實を基礎とした、空想の世界に取材せるものです。即ち子供の動作を觀察して、特異な生活を認識し、愛情をもつて、彼等に同化し、子供の眼をもつて見、子供の心をもつて感じたのが、此種の作品であります。

そこには、その見方に、感じ方に、浅い深い差があります。そして、その浅いものは、たゞ子供の心持が素直に書けてゐるさういふ程度に止るものであり、未だ、多彩にし

て、曲折なるお話を作るに至つてゐません。

新しい童話として、理想とするところは、子供の眼をもつて見、子供の心をもつて感じ、更に深く、強く、自然に働きかけることです。しかる時に、はじめて、いろいろの美と不思議を掴むものです。子供の空想程、自然に即して、豊かなるものはない。子供は、全く夢と現實の間を自在に出没し、また生活することを得るものです。故に、童話作家は、また自から純情にして、この境地にまで到達しなければならぬ。眞に作家が、子供等と生活する時に、よく、彼等を反省せしめ、彼等の性情をして、自然的なる伸展をなさしめることを得るのであります。斯の如き、科學的背景を有する空想にして、はじめて藝術的價值を生ずるのであります。

古いお伽噺にあつては、子供の内部に立入るさういふやうな謙虚と純朴さがなかつた。従つて、現實から、夢を生み出すことが出来なかつた。強制を教育したる見地から、皮相的な意義しかない童話も、目的のために役立てやうしました。そして、子供をこれに引きつけんとして、荒唐

無稽な非科學的な話も意さしなかつたのであります。

△

文學たるには、何よりも空想の普遍性、自然なるを崇びます。そして味ひの深いもの、眞に内心よりの感化に役立つものであります。將來の童話は、その人、藝術の力によつて、新しい善惡の夢を現實に創造するにあります。その作品は、人間性の涵養に力むるは勿論であるが、また、一

## 忠實なる作品を歡ぶ

×

第二回の此の懸賞童話には、『子供の生活に即した地方色のあるもの』と言ふ條件が附けてあります爲に、投稿者には、随分苦勞された事を察します。

實際は、註文が、あまりに愨張つてゐたかも知れませんが、先づ地方色の豊かなもの、次に子供の生活に即したものと云ふ工合に、二つに分けて、ごちやうでもいいから、其

面に昔のお伽噺の持つ面白味を失つてはならぬのであります。

今度の應募作品の選をするに當つて、私は、子供の生活を觀察して空想の豊かであつたものを第一とし、次に、子供の心持が比較的よく書いてゐるものを第二とし、そして、第三には、村の年中行事を見るやうに取扱つてゐるものを主として見た。(をばり)

岸 邊 福 雄

註文にはまつたものを歡迎するようにして、投稿を募つたら、もつと樂に應募されたかも知れません。

×

私は入念に審査しました。三日かかつて二三回宛通讀しました。いづれも投稿者が忠實に創作されてゐる成績のあり／＼を見えました事は、何より嬉しかつたのであります。

一篇毎に批評を加へます事も、煩雜でありますから、一